

今週（2月18日から2月22日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が380兆円台半ばで推移した。無担保コールO/Nの取引レートは、都銀・地銀業態は▲0.086～▲0.030%の幅広いレンジで、信託・証券業態は▲0.086～▲0.070%のレンジで出合いが見られた。週初から新積み期となり、国債発行等による要因から地銀業態の調達ニーズが強い中、週を通して強含む展開となった。加えて、複数行の試し取りが実施されたこともレート押し上げの要因となった。そうしたもて、無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.06%台から▲0.05%台に徐々に上昇していった。ターム物は、ショートターム物を中心に▲0.040～▲0.020%の散発的な出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは22日に2W物・8,000億円がオファーされ、4,916億円（期落ち額3,325億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは積み期序盤ながらも投資家・業者共に資金調達ニーズが堅調に見られたことから、レートは上昇しながらの推移となった。週初18日はO/N▲0.10%での出合い。T/Nは▲0.12～▲0.11%での出合い。翌19日は短国・利付債の発行からレートをやや上げて▲0.11～▲0.10%の出合い。その後も引き続きオファーニーズが厚く見られたことでレートは上昇基調を取り、21日T/Nは▲0.105～▲0.095%の出合い、週末の22日にはレートは大きく上昇し、▲0.10～▲0.06%までの出合いとなった。

SCについてはビッドが目立った銘柄は5Y133～137、10Y337～353、30Y59～61、40Y11などにビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、長期債が堅調に推移する中、短国市場についても全般的にレートは低水準での推移となった。

21日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。応札額が2兆円弱と多く、平均落札利回較差+0.024%、按分落札利回較差+0.012%と、引け値の低い銘柄の在庫調整の売りからか、引き続き弱めの結果となった。

19日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.192～▲0.189%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1906%、按分落札利回▲0.1886%とWI取引を反映し、前回債からレートが低下する結果となった。セカンダリーでは、▲0.205～▲0.200%出合いと堅調に推移した。

22日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.218%から一時▲0.225%まで買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.2207%、按分落札利回▲0.2065%とWI取引を反映した強めの水準となったものの、按分レートがやや流れる結果となった。セカンダリーマーケットは、足元GCレートの上昇を受けてか、全般的に小甘く推移した。3M物が▲0.220～▲0.210%、6M物が▲0.222%、1Y物が▲0.205%で少額出合いが見られた。

●CP市場

今週のCP市場は、20日、25日にかかる発行があり、ノンバンク・石油・鉄鋼等の業態で大型案件がみられた。週間総額は、7,100億円程度の償還に対して、9,700億円程度の発行と、発行超となった。その結果、先週13日に21兆円台を割り込んだ市場残高は、20日には再び21兆円台を回復した。発行レートは先週同様、二分化された傾向が続いた。期内物は、残高の少ない高格付銘柄を除いて、プラス圏でレートが若干上昇する一方で、期越え物は、オペ適格銘柄を中心に、引き続き0%から浅いマイナスでの発行がみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/18 (月)	21,281.85	△ 0.025	110.52	△ 0.063	△ 0.117	3,841,400
2/19 (火)	21,302.65	△ 0.035	110.68	△ 0.063	△ 0.115	3,853,600
2/20 (水)	21,431.49	△ 0.040	110.84	△ 0.058	△ 0.111	3,833,400
2/21 (木)	21,464.23	△ 0.045	110.72	△ 0.056	△ 0.110	3,830,700
2/22 (金)	21,425.51	△ 0.045	110.72	△ 0.058	△ 0.087	3,835,000

来週（2月25日から3月1日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
2/25 (月)	1月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 12月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)		12月の米卸売売上高
2/26 (火)		流動性供給 5,000億円 2/27発行	12月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 1月の米新築一戸建て販売件数(延期) 12月の米住宅着工件数 2月の米CB消費者信頼感指数
2/27 (水)	香川県金融経済懇談会にて片岡審議委員講演	交付税借入 10,500億円 3/8借入	1月の米耐久財新規受注 12月の米製造業新規受注・出荷・在庫
2/28 (木)	茨城県金融経済懇談会にて鈴木審議委員講演 1月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 1月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 1月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	2Y 21,000億円 3/1発行	10-12月期の米GDP改定値 2月のシカゴPM景況感指数
3/1 (金)	1月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 2月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 1月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 10-12月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50) 2月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TB 3M 43,600億円 3/4発行	12月の米個人所得・消費支出 1月の米個人所得(消費支出は無し) 2月のISM 製造業景況感指数 2月のユーロ圏消費者物価指数速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/25 (月)	▲ 200	900	700	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入		7,200 ▲ 3,300 ▲ 300 500 100	9,100	9,800	TB3M発行▲43400償還42500 国有林借入▲1000期日900
2/26 (火)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
2/27 (水)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	流動性供給▲5000
2/28 (木)	▲ 1,400	6,000	4,600	CP買入		2,000	2,000	6,600	交付税借入▲10500期日10500
3/1 (金)	▲ 1,000	▲ 31,000	▲ 32,000				0	▲ 32,000	財政融資資金の回収 税・保険料揚げの前倒し 2Y発行▲21000
週間合計	▲ 4,600	▲ 26,100	▲ 30,700	—	▲ 3,600	14,700	11,100	▲ 19,600	

2/25は日銀予想、2/26以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、月末週となり28日は落ちついた取引が想定されるが、試し取りが複数の先から予定されていることに加え、引き続き地銀業態の調達意欲が高いと見られることから、無担保コールO/N加重平均レートは横ばいから小幅上昇する展開も考えられる。レポ市場は、週内に月末を迎えるものの、足元の堅調なGCは引き続き継続することが予想され、▲0.10%を上回る水準での引合いが中心になることが予想される。短国市場は、3月1日に3M物の入札が実施予定となっており、堅調な相場がどこまで継続するか注目される。CP市場は、月末発行で期越え物の発行がどれだけ増えるかが注目される。また、25日には、CP等買入オペが2,000億円予定されている。

主要なイベントとしては、海外では28日に10-12月の米GDP改定値、1日に2月のユーロ圏CPI速報値が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお選する書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入